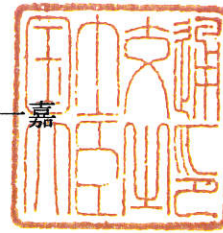


認 定 書

国住指第 1918 号
令和元年 11 月 1 日

因幡電機産業株式会社
代表取締役社長 喜多 肇一 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060FL-1083
2. 認定をした構造方法等の名称
被覆材付配管・鋳鉄製管継手／セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分(中空床を除く)
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

被覆材付配管・鋳鉄製管継手／セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分(中空床を除く)

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

| 項 目 | | 仕 様 |
|--------------------------------|----|---|
| 開口部 | 形状 | 円形(φ210mm以下) |
| | 面積 | 0.035m ² 以下 |
| 占積率 (開口面積に対する配管の断面積の総合計の割合) | | 52.4%以下 |
| 貫通する床の構造等 | | ALCパネル又は鉄筋コンクリート造 厚さ 100mm以上(貫通部措置材ありの場合) 厚さ 150mm以上(貫通部措置材なしの場合) |

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表2に、配管の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

| 項 目 | | 仕 様 | | |
|-----|-----|------------------------------------|---|--|
| 被覆材 | 材料 | ポリオレフィン系樹脂不織布付軟質塩化ビニル樹脂シート・PETフェルト | | |
| | | 寸法 | 厚さ：14.2mm以下 被覆長さ：300mm以上(立て管、横枝管の場合) | |
| | | 使用箇所 | 1)立て管 2)横枝管(あり又はなし) | |
| | 表面材 | 材料 | ポリオレフィン系樹脂不織布付軟質塩化ビニル樹脂シート | |
| | | 材質 | 仕様：あり又はなし ポリオレフィン系樹脂不織布 | |
| | | 質量 | | |
| | | 材質 | 軟質塩化ビニル樹脂シート | |
| | | 組成 (質量%) | | |
| | | 厚さ | 2.2mm以下 | |
| | | 密度 | | |
| | 基材 | 材料 | PETフェルト | |
| | | 組成 (質量%) | | |
| | | 厚さ | 12mm以下 | |
| 密度 | | | | |

つづく

つづき

| | | | | |
|---------------|---|---------------------------|---|--|
| 耐熱シート材 | 材料 | 化粧材付熱膨張材・合成ゴム混入無機質充てんシート | | |
| | 寸法 | 総厚：2.225mm以上、幅：40mm以上 | | |
| | 設置箇所 | 受け金具の内面に沿うように取り付け | | |
| | 化粧材1 (受け金具側) | 材料 | 仕様：あり又はなし アクリル系粘着テープ | |
| | | 厚さ | 0.2(±0.05)mm以下 | |
| | シート | 材料 | 熱膨張材・合成ゴム混入無機質充てん材 | |
| | | 厚さ | 2mm以上 | |
| 化粧材2 | 組成 (質量%) | | | |
| | 材料 | 仕様：あり又はなし ポリオレフィン系フィルム | | |
| 貫通部措置材 | 厚さ | 25(±10)μm以下 | | |
| | シート | 材料 | 仕様：あり又はなし アルミニウム・ガラスクロステープ張ロックウールシート ・不織布付ロックウールフェルト | |
| | | 寸法 | 総厚さ：12.9(±0.5)mm以上、幅：150mm以上 | |
| | | 使用箇所 | 床貫通部の管継手の周囲に巻き付け | |
| | シート | 材料 | 1)、2)及び3) (3層) 1)内層：ポリオレフィン系不織布付ロックウールフェルト 2)中間層：ロックウールシート 3)外層：アルミニウム・ガラスクロステープ | |
| | | 厚さ | 総厚さ 12.9(±0.5)mm以上 1)内層厚さ：10.6(±0.6)mm 2)中間層厚さ：2.1(±0.5)mm 3)外層厚さ：0.2mm以上 | |
| | | 密度 | 1)内層： 2)中間層： | |
| | テープ | 材料 | アルミニウムはく張ガラスクロステープ (酢酸ビニル樹脂系粘着剤付) | |
| | | 寸法 | 厚さ0.2mm以上 | |
| | | 用途 | シートの施工用 | |
| 充てん材 | 材料 | セメントモルタル | | |
| | 組成 (質量%) | 普通ポルトランドセメント | 25 | |
| | 砂 | | 75 | |
| 使用箇所 (使用量) | 床と排水管(管継手)の隙間 (貫通部措置材ありの場合： 床厚方向100mm以上密に充てん) (貫通部措置材なしの場合： 床厚方向150mm以上密に充てん) | | | |

表3 配管の仕様

| 項目 | | 仕様 | | | | | |
|-----|--|-----|---|----|--------------------------------------|----|----------------------------------|
| 排水管 | 管継手 | 材料 | 本体：ねずみ鋳鉄品 (JIS G 5501) 表面処理：エポキシ樹脂系紛体焼き付け塗装 ゴムパッキン：合成ゴム 仕様：あり又はなし 押輪：球状黒鉛鋳鉄品 (JIS G 5502) 留付材：ボルト (鋼製 (ステンレス鋼含む)) 横枝本数：4本以下 | | | | |
| | | 種類 | 受口タイプ (床上) 差口タイプ (床下) | | | | |
| | | 外径 | φ 152mm以下 | | | | |
| | ソケット | 材料 | 仕様：あり又はなし 本体：排水用硬質ポリ塩化ビニル管継手 (JIS K 6739) ゴムパッキン：合成ゴム | | | | |
| | | 寸法 | 外径：150.6mm以下 内径：115.7mm以下 | | | | |
| | 立て管 | 横枝管 | 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741、JIS K 6742、JIS K 6776) (VP管、HIVP管、HT管) 受口：あり又はなし ゴムパッキン：合成ゴム (エポキシ樹脂系粘着材付：あり又はなし) | 外径 | φ 114mm以下 (受口：φ 146mm以下) | 厚さ | 7.1mm以下 |
| | | | | | φ 114mm以下 | | 7.1mm以下 |
| | | | | | 外管： φ 138mm以下 内管： φ 114mm以下 | | 外管： 5.5mm以上 内管： 7.1mm以下 |
| | 耐火二層管 (国土交通大臣認定：PS060FL-0401、0383、0454において配管として規定される繊維混入セメントモルタル被覆合成樹脂管) | | | | | | |

4. 副構成材料の仕様 :

副構成材料の仕様を表4に示す。

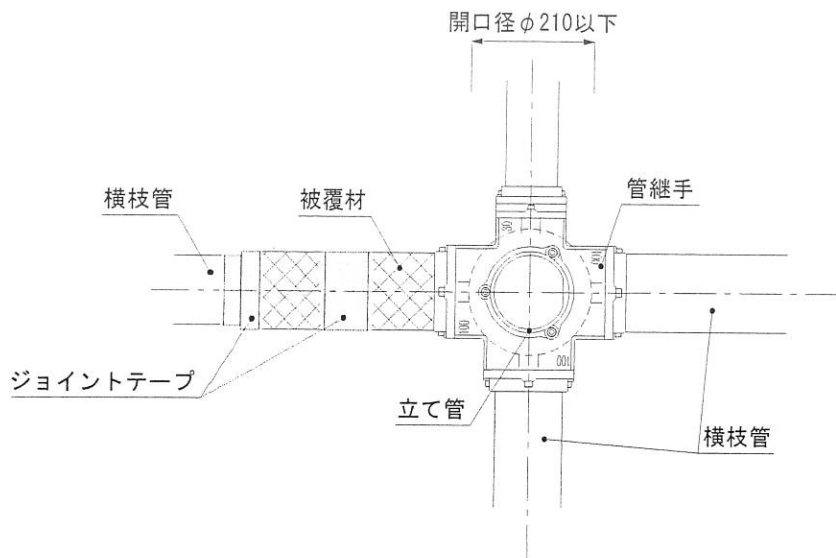
表4 副構成材料の仕様

| 項目 | | 仕様 | |
|----------|------|---|--|
| ジョイントテープ | 材料 | 合成樹脂製(合成ゴム系粘着剤付) | |
| | 寸法 | 厚さ : 0.95mm 以下、幅 : 76mm 以下 | |
| | 使用箇所 | 被覆材と配管の端部、被覆材同士に使用 | |
| 受け金具 | 側面部 | 材料 | 1) 又は 2) 1) 鋼板(めっき処理品、焼付塗装品含む) 2) ステンレス鋼板 |
| | | 使用箇所 | 管継手下部に設置 |
| | 上下部 | 寸法 | 外径 : $\phi 185(\pm 15)$ mm 以下 高さ : 185(± 15)mm 以上 厚さ : 0.5(± 0.1)mm 以上 |
| | | 寸法 | 外径 : $\phi 185(\pm 15)$ mm 以下 厚さ : 1.0(± 0.1)mm 以上 |
| 結束バンド | 材料 | 1) 又は 2) 1) 鋼板(めっき処理品、焼付塗装品含む) 2) ステンレス鋼板 | |
| | 寸法 | | |
| | 使用箇所 | 被覆材の受口部の固定に使用 | |
| 被覆材用テープ | 材料 | 1) 又は 2) 1) 合成ゴム系粘着剤付布テープ 2) アクリル系粘着剤付合成樹脂テープ | |
| | 寸法 | 厚さ : 0.3mm 以下、幅 : 76mm 以下 | |
| | 使用箇所 | 被覆材の円筒状への貼り合わせに使用 | |

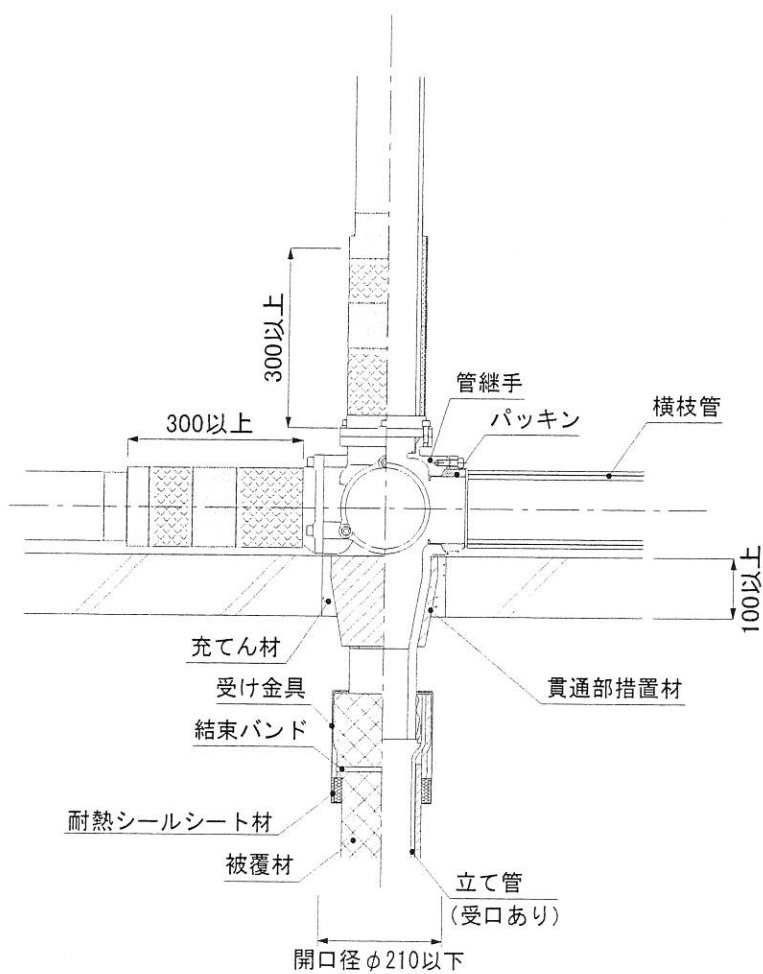
5. 構造説明図 :

構造説明図を図1～図3に示す。

単位mm



平面図



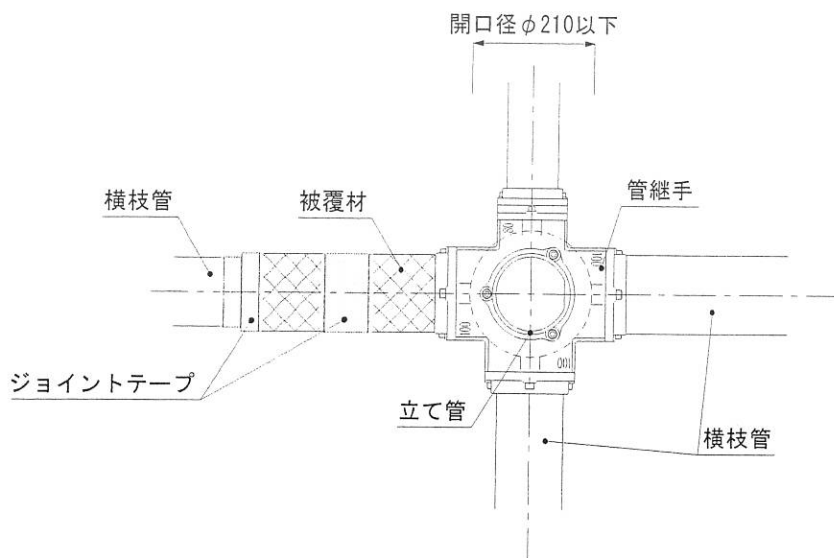
断面図

貫通部措置材を用いる場合

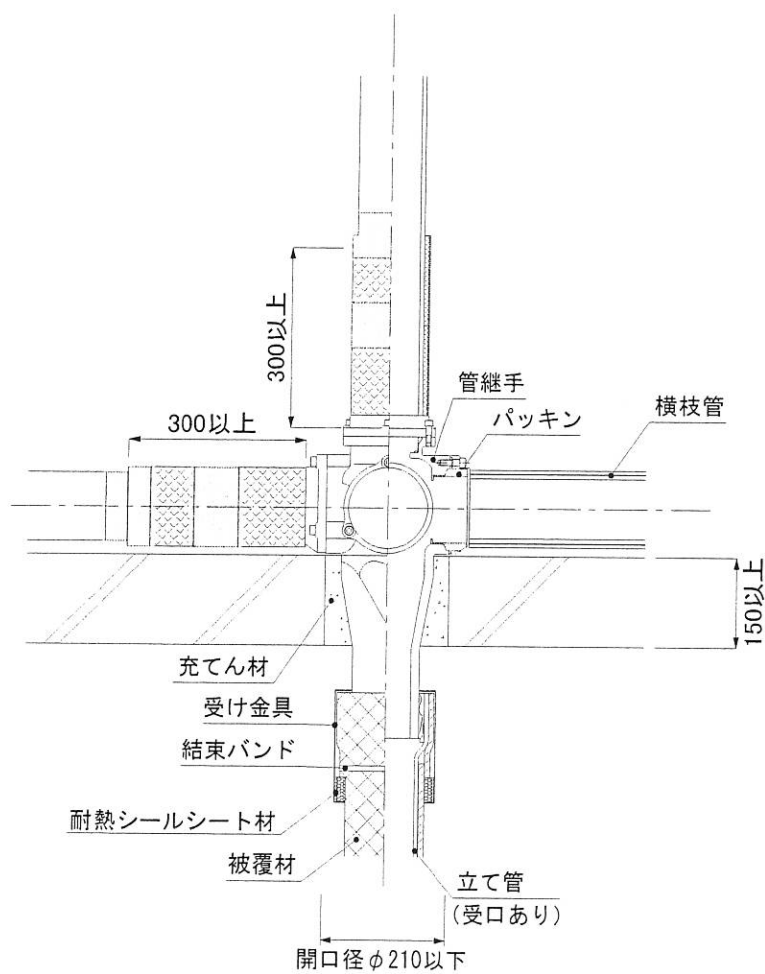
管継手下部の接続部に立て管の受口仕様を用いた場合(代表例)

図1 構造説明図(施工図)

単位mm



平面図

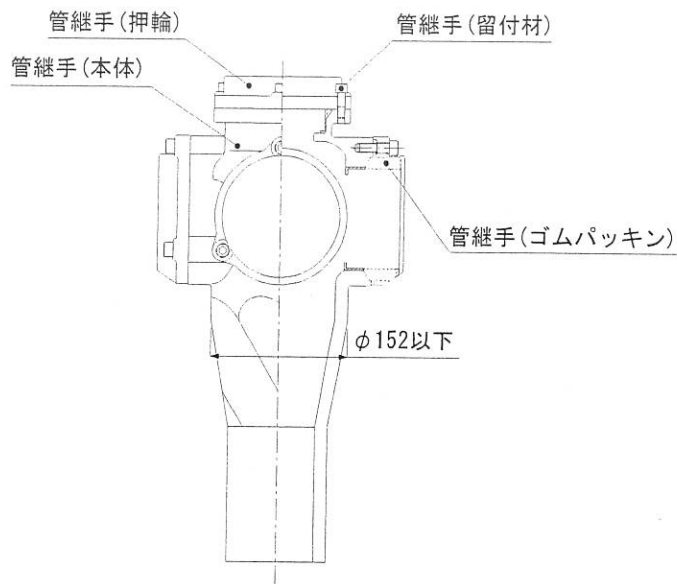


貫通部措置材を用いない場合

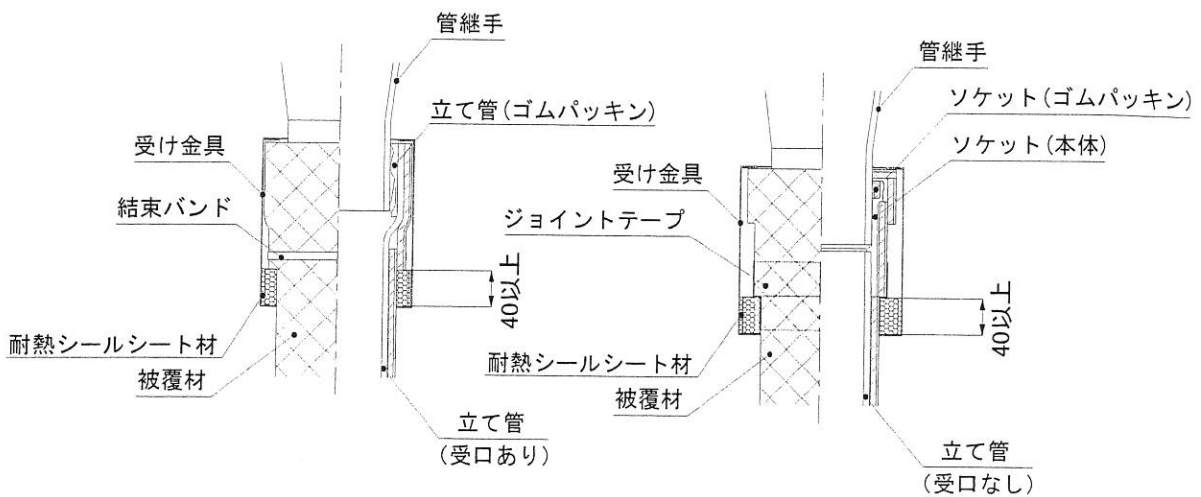
断面図

管継手下部の接続部に立て管の受口仕様を用いた場合(代表例)

図2 構造説明図(施工図)



管継手の詳細図(代表例)



立て管の受口仕様を用いた場合

ソケットを用いた場合

管継手下部の接続部詳細図

図3 構造説明図(施工図)

6. 施工方法：

施工は、以下の手順で行う。

- (1) 貫通開口部の設定
配管サイズ及び占積率を考慮して貫通開口部を設ける。
- (2) 貫通部措置材を設置
管継手に貫通部措置材を設置する場合、隙間の無いように巻きつけ、その上にテープを巻き付ける。
- (3) 埋戻し
セメントモルタルにて埋め戻し、隙間がないことを確認して仕上げる。
- (4) 配管の設置
＜ソケットありの場合＞
管継手下部にソケット、立て管を挿入し、支持・固定する。
＜ソケットなしの場合＞
管継手下部に受口付硬質ポリ塩化ビニル管を挿入し、支持・固定する。
- (5) 受け金具の取り付け
耐熱シールシート材付受け金具をビスで管継手下部に取り付ける。
- (6) テープ留め
配管と被覆材端部、被覆材同士の合わせ目にジョイントテープを巻きつける。